

2022 年度 一般社団法人日本活断層学会 論文賞

論文名：「能登半島北部沿岸の低位段丘および離水生物遺骸群集の高度分布からみた海域活断層の活動性」

著者：宍倉正展・越後智雄・行谷佑一「活断層研究」53号 pp. 33-49

【選考理由】

能登半島北部沿岸において、海域音波探査から完新世に活動した海底活断層の存在が明らかにされているが、同地域の陸域に更新世に形成された海成段丘（中位段丘）については既存研究が存在するものの、完新世に形成された低位段丘から沿岸海域の活断層運動にともなった地殻変動について論じた研究は少なかった。本論文では、完新世の低位段丘の分布および離水生物遺骸群集の高度と年代を調査し、2つの完新世段丘の比高差について相対的海面低下率を用いて除することにより、おおよその再来間隔と離水年代を推定するという評価方法を取り入れて、沿岸海域の活断層評価を行っている。再来間隔と離水年代の推定には、いくつかの仮定が含まれており、今後、検証等が必要ではあるが、これらの問題点についても適切に言及された上で、既存研究との比較を含めて多くの考察がなされている。同地域の海底活断層の活動評価を行うだけでなく、新たな評価手法の導入を試みた点が高く評価できる。また、同手法を用いた今後の展開にも期待ができ、陸域活断層に比べて調査・研究が遅れている沿岸域の活断層について、詳細な変動地形学的調査の有効性を示した論文として高く評価される。